

【 イザヤ書 】

- 7:14 それゆえ、【主】は自ら、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ。
- 9:6 ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。 ひとりの男の子が私たちに与えられる。 主権はその肩にあり、 その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。

【 ヨハネの福音書 】

- 1:1 初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。
- 1:14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

【 ローマ人への手紙 】

- 8:3 肉によって弱くなったため、律法にできなくなったことを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪深い肉と同じような形で、罪のきよめのために遣わし、肉において罪を処罰されたのです。

【 ピリピ人への手紙 】

- 2:6 キリストは、神の御姿であられるのに、 神としてのあり方を捨てられないとは考えず、
- 2:7 ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、 人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、
- 2:8 自らを低くして、死にまで、 それも十字架の死にまで従われました。

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



希望の光バプテスト教会

2021年 11月 28日 (日)

礼拝メッセージノート

「 七十週の預言が示すメシアの初臨 」

| クリスマス2021① ダニエル書9：20～27 他 小野寺 望 牧師

【 ダニエル書 9章 】

- 20 私がまだ語り、祈り、自分の罪と自分の民イスラエルの罪を告白し、私の神の聖なる山のために、私の神、【主】の前に伏して願いをささげていたとき、
- 21 すなわち、私がまだ祈りの中で語っていたとき、私が初めて幻の中で見たあの人ガブリエルが、すばやく飛んで来て私に近づいた。それは夕方のささげ物を献げるころであった。
- 22 彼は私に悟らせようとしてこう告げた。「ダニエルよ。私は今、悟りによってあなたを賢明にさせようとして出て来た。
- 23 あなたが願いの祈りを始めたとき、一つのみことばが出されたので、私はそれを伝えに来た。あなたが特別に愛されている者だからだ。そのみことばを聞き分けて、その幻を理解せよ。
- 24 あなたの民とあなたの聖なる都について、 七十週が定められている。それは、背きをやめさせ、 罪を終わらせ、 咎の宥めを行い、 永遠の義をもたらし、 幻と預言を確証し、 至聖所に油注ぎを行うためである。
- 25 それゆえ、知れ。悟れ。 エルサレムを復興し、 再建せよとの命令が出てから、油注がれた者、君主が来るまでが七週。 そして苦しみの期間である六十二週の間に、広場と堀が造り直される。
- 26 その六十二週の後、 油注がれた者は断たれ、彼には何も残らない。次に来る君主の民が、都と聖所を破壊する。 その終わりには洪水が伴い、戦いの終わりまで荒廃が定められている。
- 27 彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、 半週の間、いけにえとささげ物をやめさせる。忌まわしいものの翼の上に、荒らす者が現れる。そしてついには、定められた破滅が、荒らす者の上に降りかかる。」

(4ページへ続く)

◆はじめに ～キリストの御降誕をお祝いしよう

- (1) キリストの降誕：神である方が人となられた（受肉）
- (2) 「繁栄の神学の父」ケネス・ハーゲンが語る別の福音（参照 ハーベストウッチ11/26）
 - ① イエスは十字架後に地獄に落ちて、復活を経て「神の子」となった？
*キリストへの信仰による救いでなく、「信じて語ると実現する」という点が強調される。
 - ② イエスに対する誤った理解が、福音を捻じ曲げる。
*今日、世で祝われるクリスマスに、メシア到来の喜びはどれだけあるだろうか。
- (3) 旧約預言から、キリストの降誕について理解を深めることは有意義である。
 - ① ダニエルの七十週の預言は、エレミヤの奉仕を受けて明らかにされた預言。
 - ② 神のタイムテーブルを通して、メシア到来のタイミングを明らかにした。
*メシアの初臨と再臨の両方を含み、神の計画において欠かせない要素である。

◆メッセージのアウトライン紹介とゴール

| 受肉された神キリスト

*このメッセージは、メシア降誕の預言とその性質を学ぶものである。

I 天使ガブリエルによるメシアの啓示（20～23節）

- (1) ガブリエルの到来：「七十週の預言」を与える意味について言及
 - ① 「メシア的王国」到来の時期を正すため
 - ② メシアの初臨の時期を告げるため：後の受胎告知での天使もガブリエル。
- (2) 「七十週」の意味
 - ① 「週」のヘブル語は「シャブオット」（7を意味する）の複数形
 - ② つまり「7の束が70」あり、メシア的王国設立の時期に関係している。
- (3) メシア的王国はいつ到来する？ ～神の計画は捕囚からの帰還で終了ではない。
 - ① ダニエルが「7」の単位を年と考えていたこと、特に捕囚の70年を念頭に置いていたことは確かである。エレミヤによる70年の預言は、エレ25章。
 - ② ダニエルは70年（捕囚の終了）で、メシア的王国が到来すると考えていた。
 - ③ この啓示は、王国到来の時期に関する考えを正し、70×7年（490年）後であることを定める。
*「定められた」というヘブル語の意味は「切り取る」「定める」
 - ④ バビロン捕囚からメシア的王国が到来するまで、異邦人がユダヤ人に対して支配的地位に立つ時代（異邦人の時）となる。
*ダニ2章、7、8章には世界がこの後たどる歴史が記される。

⑤70週（490年）が定められた理由は、イスラエルを最終的に回復し、メシア的王国を樹立するため。

II メシアの初臨のタイミング（24～27節）

1.七十週の預言のアウトライン

- (1) 70週の開始 9：25a (2) 最初の69週 9：25b
- (3) 69週と70週の間にかかること 9：26 (4) 70週目 9：27
*初臨に関する部分は(2)の最後ということになり、今回は(3)に注目し、他は割愛する。

2.最初の69週（7+62週）～メシアはいつ来るか

- (1) エルサレム再建の勅令：70週のカウントダウン開始の合図
*現存する歴史的記録や聖書の記事から、4つの候補が挙げられる。
- (2) 最も有力な立場は、前538～536年のクロスの勅令
*エルサレム再建（イザ44：28、45：13）神殿再建（2歴36：22～23、エズ1：1～4、6：1～5）
- (3) もしくは、前444年のアルタシャスタがネハミヤに与えた、神殿再建の勅令（ネハ2：1～8）

3.メシアの初臨 ～君なるメシアの到来

- (1) 69週が終りに「油注がれた者（へ：メシア、ギ：キリスト）、君主」が来る。
*つまり、エルサレム再建から483年（69×7年）後にメシアが地上にいることになる。
- (2) メシアの死についても、上記の「69週と70週の間のある出来事」で知るされる。
*自分自身のための死ではないことも、翻訳から見えてくる。
- (3) それは、やがて再臨して地上に御国を建ててメシアの初臨なのである。
*やがて再臨の後、王として地上を治めるためにも、キリストは人性を伴っておられる。

III イエス・キリストの降誕の実際

1.天使ガブリエルによる啓示

- (1) マリヤとヨセフへの受胎告知：同じ御使いが素晴らしい知らせを届けた。
- (2) メシアの初臨にかかわる大切な啓示が、ダニエルと同じ天使によってなされた。

2.メシアの降誕に関する他の計画も、すべて成就した。 一部を紹介

- (1) イザ9：6（人としての誕生と4つの名に込められた性質）
- (2) 7：14（処女降誕、インマヌエル）

◆まとめ：受肉された神キリスト

- (1) キリストの受肉：それは言い換えれば「奪め」
ヨハ1：14、1ヨハ4：2、2ヨハ7、ロマ8：3
- (2) その成就 ヨハ1：1、ルカ1：26～38、ピリ2：6～8、1テモ3：16
- (3) 神が地上の歴史に介入された、素晴らしい出来事である。

①全人類を罪と死の鎖から解き放つ、唯一の救い主を受け取り、賛美しよう